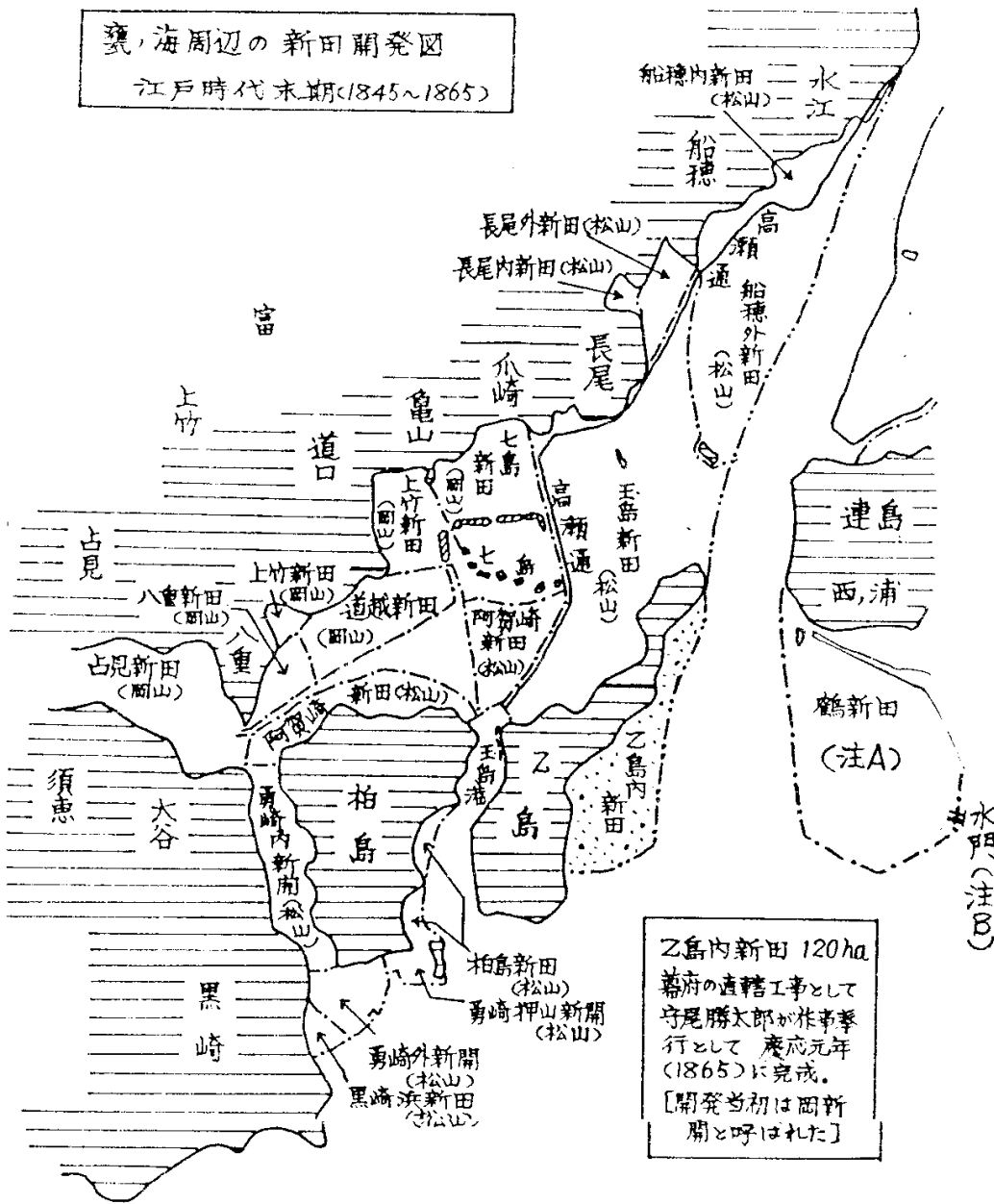


瀬、海周辺の 新田開発図

江戸時代末期(1845~1865)



乙島内新田 120ha
幕府の直轄工事として
守尾勝太郎が作事奉
行として 慶応元年
(1865)に完成。
[開発当初は岡新
開と呼ばれた]

十九世紀末以降の
玉島周辺の 新田開発概要

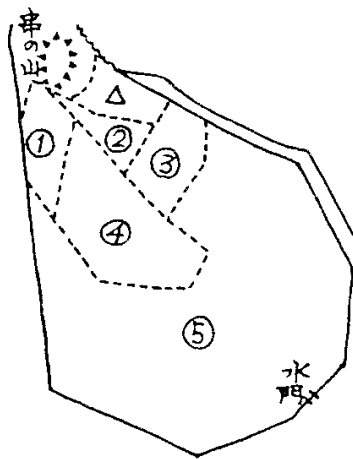
鶴新田水門(注B) 笠石刻文
嘉永三庚戌九月調之
新開築立元方 大塚金平外十五名
新開請負人 三宅直吉
元方支配 松井滝右衛門

龜島高登 鶴田遠連
爰卜其地 新開良田
神亀鎮海 靈鶴護天
干風干汐 間堅万年
小野 徵撰併書

鶴新田 開発暦 (注A)

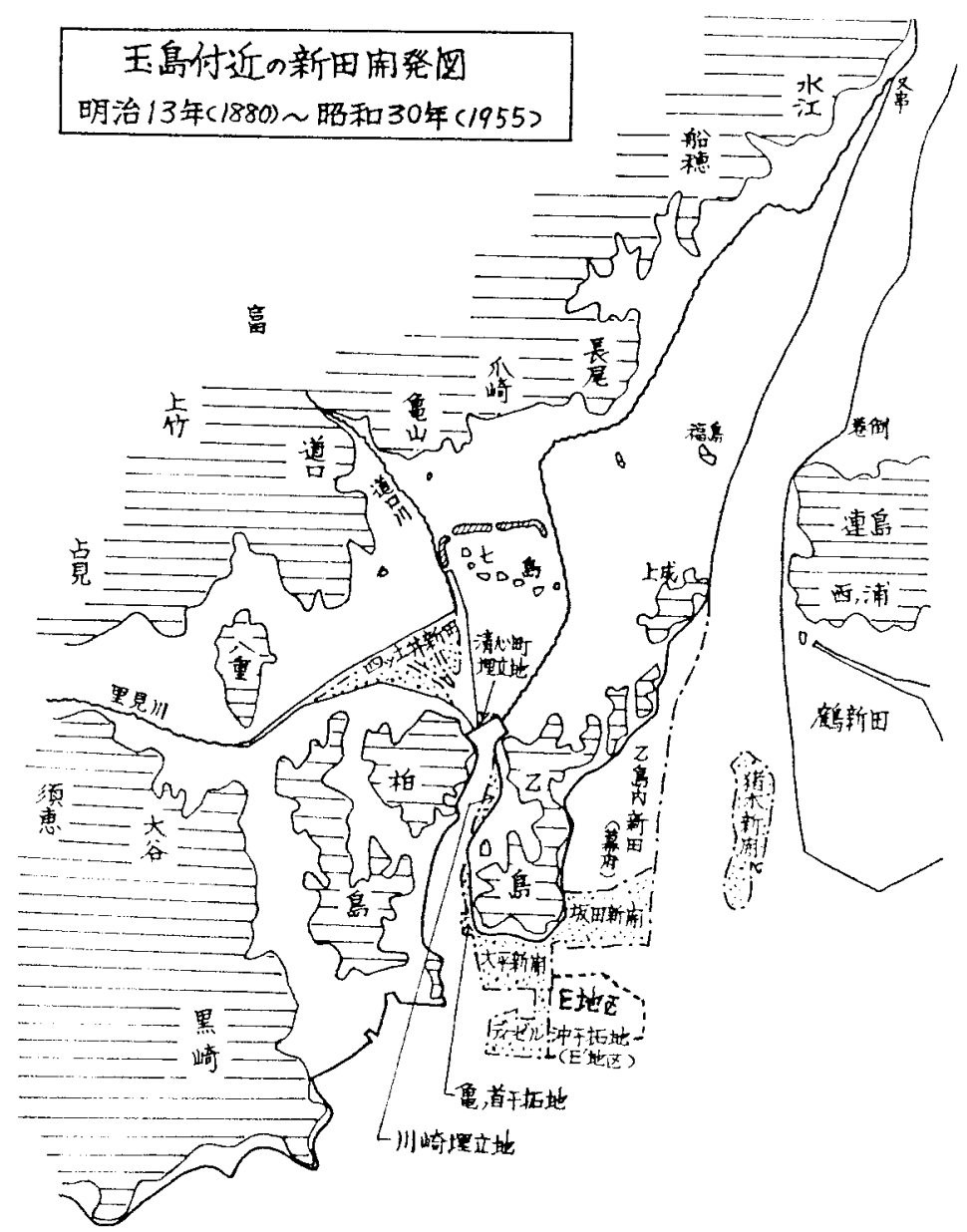
(江戸時代には 露の文字が使用していたといわれる)

- △ 米屋開 7ha 文化10年(1813) 成羽藩領
(西之浦村 米屋 三宅氏の施工によりこの名で
呼ばれるようになった)
- ① 寛政開 10ha 寛政6年(1794) 倉敷代官所領
- ② 文化開 6ha 文政元年(1818) 同上
(文化元年計画 資金難で着工が文化9年と遅れた)
- ③ 文政開 10ha 文政12年(1829) 倉敷代官所領
- * 天保3年(1832) 上記4新田を合わせて
「鶴新田村」とし、西之浦村から分離独立
させた。また領地交換により 成羽藩領とした。
- ④ 天保開 30ha 天保5年(1834) 倉敷代官所領
成羽藩領
- ⑤ 弘化開 180ha 嘉永3年(1850) 成羽藩領
鶴新田村 243ha 成羽藩領



小野 徵は上成村の人、出資元方
(新開築立元方)の一人 小野小十郎
の嗣子で、和歌を小野務に学
び、地方の文人であった。

玉島付近の新田開発図
 明治13年(1880)～昭和30年(1955)



明治以降 新田開発年表

年代	開発名	備考
明治13年 (1880)	猪木新南	猪木雄一郎 高粱川河口の牛洲を整備
昭和8年 (1933)	坂田新南 53ha	坂田貢 昭和11年(1936) 太陽レヨンkk 玉島工場の設立(注2)
昭和10年 (1935)	川崎埋立地 6ha	坂田貢 荷揚場、小工場の敷地として利用
昭和18年 (1943)	大平新南 33ha	坂田貢 昭和23年(1948) 浦賀ディーゼル 玉島工場の設立(注3)
昭和27年 (1952)	阿賀崎埋立 (玉島新南東埋立)	清心町商店街の設立 玉島ランド造成
昭和28年 (1953)	亀の首干拓地 3ha	中野飼料kk敷地[S39玉島市長誘 器調印 S41.7落成(1ha)]
昭和29年 (1954)	ディーゼル中干拓地 33ha	水島臨海工業地帯の発展整備に当たり て乙島E地区干拓埋立地として継続され、 S43誘器調印、S46中玉島火力発電 所竣工。(35石ボット)

(注2)
 太陽レヨンkk玉島工場(昭和11年)
 ↓
 帝國繊維kk玉島工場(昭和16年)
 中央繊維kk玉島工場(昭和25年)
 ↓
 倉敷レヨン玉島工場(昭和31年)
 ↓
 アヲレ玉島工場(昭和39年)

(注3)
 神戸製鋼玉島工場(昭和20年
 建設工事停止)
 ↓
 浦賀ディーゼル玉島工場(昭和23年)
 ↓
 浦賀重工業玉島工場(昭和37年)
 ↓
 住友重機玉島製造所(昭和44年)